

～つなぐ・つながる・つなげる～
ボランティア・関連団体の
あゆみ



展示解説ボランティア



なりたち

博物館の開館翌年の1996年3月、大塚・歳勝土遺跡公園が一部開園しました。翌年3月には、旧長沢家住宅を移築復原した都筑民家園と工房が完成し、大塚・歳勝土遺跡公園が全面開園しました。

この遺跡公園を活用する取り組みの一つとして、また、社会的要請となっていた市民への生涯学習支援、市民参加の促進に向けた活動として、1998年に募集を始めたのが「遺跡ガイドボランティア」です。市民のみなさまの力をお借りし、大塚・歳勝土遺跡について学校の団体見学で訪れた子どもたちや一般市民に向けて解説するものです。

弥生時代や大塚・歳勝土遺跡についての座学と現地見学の講座、そして子どもたちや市民に解説するための実地研修を経て、1999年3月から活動がスタートしました。ガイドを受けた子どもたちや市民の方からは、熱の入った解説で大塚遺跡や歳勝土遺跡をより詳しく知ることができると好評をいただいています。

2016年には、遺跡公園に加えて常設展示室の解説も行う「展示解説ボランティア」に編成替えを行い、現在は常設展示室と遺跡公園の両方のガイド活動で活躍いただいています。

2026年 登録者数78名
 1999年3月から2026年3月末までのガイド解説総回数32,384回
 団体学校数5,057校以上
 参加者数合計609,960人

遺跡公園



常設展示室



※2024年9月からワンポイント解説(定時)を開始

ユニフォームの変遷

展示解説ボランティアのユニフォームは、1999年3月から今までを通じて様々なバリエーションがありました。現在は、赤いネックストラップがボランティアの証となりました。

ジャンパー



帽子



ポロシャツ



ネックストラップ



ジャンパー着用の様子



研修の様子

活動支援ボランティア



なりたち

4~7月に学校団体が多数来館する子どもたちへのまいぎり式火起こしの疑似体験、そして毎月最終土曜日に火起こしなどのワークショップを提供するために、2008年4月に事業支援ボランティアとして試行、活動を始めたボランティアです。当初は試行的に遺跡ガイド登録者やそのOBを対象に参加を募りましたが、活動が来館者からもボランティアからも評価を得たことから、翌年には広く募集を行い、活動を進めてきました。

2009年以降は「活動支援ボランティア」と名称を変更し、体験学習室での「れきし工房」、歴史未来フェスやセンター北まつりなど、博物館内外での事業の実施に携わっています。

2026年 登着数24名

2008年から2026年3月末までの活動参加延べ人数10,882人

火起こし体験・火起こし疑似体験



れきし工房



まがたま・あじろ編み小物入れ作り

歴史未来フェス



常設展示室DEまがいがさがし



スポーツ土器パズル

センター北まつり



歴博オリジナル缶バッジ作り



浮世絵スタンプ

横浜縄文土器づくりの会



[設立年月日] 1997年5月11日

会員数 20人 (2026年3月現在)

なりたち

1997年3月、前年に公開された遺跡公園の活用として博物館の歴史講座「土器作り教室」が開催されました。この時、加曾利貝塚土器づくり同好会(千葉県)のご指導を多くいただいた中で、教室が終了した後も、「受講生が切磋琢磨し縄文土器作りの技術を向上させ、縄文時代の知識を深め、博物館のお手伝いをする組織」として、有志により設立いたしました。

今

現在の活動の主な内容は、年3回の土器づくり(野焼きは博物館の事業と合同で行う)、博物館の土器づくり事業のサポートです。

代表幹事変遷

森田衛(1997~)高橋力(1999~)安西宏(2000~)石田康明(2001~)柴原勝治(2004~)佐々木洋明(2006~)池谷薫(2008~)星野家達(2010~)石井庸一(2012~)大木陸夫(代表代行)(2013~)星野家達(2014~)山宮六男(2016~)佐々木洋明(2018~)星野家達(2020~)池谷薫(2023~)

博物館とともに

発足の目的から、当会は博物館事業とは切っても切れないご縁でこれまで活動を継続しています。学芸員と協力して地域の土探しから始まり、薪を集め、歴史講座(現在は実験考古学講座)「土器作り教室」では、指導者の一員として毎回参加者をサポートしています。その他、博物館に依頼を受けて実験や展示用の土器を制作したり、普及事業のお手伝いをしたりと活発に活動してきました。今後もお互いの相互協力のもとに続けていきたいと思えます。



土器づくり教室



小学校への出張土器づくり

主な活動



野焼きの様子

歴博学芸員に制作する土器の選定をしてもらい、土器を成形、春・秋・冬に大塚・歳勝土遺跡公園体験ひろばにて野焼きをし、土器を完成させています。

令和6年度は横浜市歴史博物館が収蔵している港北ニュータウン遺跡群の縄文土器を中心に制作しました。過去の選定土器や活動風景は『大塚・歳勝土だより』に記録されています。



会報『大塚・歳勝だより』



焼成前の土器

会員からのメッセージ

博物館と会はもう25年以上のお付き合いになります。博物館が工房という活動環境を整えてくださっていることで活動ができています。感謝しています。

本物の土器をじっくり見ながら地元で採掘し練った粘土で作上げていく工程の楽しさは会の設立当初から変わらず、またこれは会の誇りにもなっています。この基本はこれからも大切にしていきたい。

新しいことも始めています。野焼きの時のドングリ粉クッキー作りや縄文土器をお鍋に使った縄文スープ作り。縄文時代の人々が何を食べていたのかを想像して食べる。少々手間はかかりますが楽しい取り組みです。

これからも博物館と連携し、縄文土器や縄文時代に興味を持つ方々とつながり、土器づくりの技術を磨きながら楽しい活動を進めていきます。どうぞこれからもよろしくお願いたします。



横浜古文書を読む会



[設立年月日] 1995年11月17日 **会員数** 98人 (2026年3月現在)

なりたち

当会は、横浜市歴史博物館主催の古文書解説教室「はじめての古文書」を受講された方が更なるレベルアップを目指して設立された近世古文書を読む会で、現在100名ほどが参加しています。当会は1995年の横浜歴博の開館と同時にスタートし、2025年11月で創立30周年を迎えました。

▶ 今

横浜市歴史博物館の近世史の学芸員を講師に講義形式の通常活動を実施しています。現在は、8月を除く月2回(原則として、第1週金曜、第3週金曜)の活動を行っています。

※現在の講師:横浜歴史博物館学芸員小林紀子氏・仲泉剛氏

代表幹事変遷

田邊義立(1995~1997年) 石田康明(1998~2001年) 倉本宗剛(2002~2003年) 岩松繁(2004~2007年) 松居和男(2008~2012年) 及川治雄(2013~2014年) 鈴木一史(2015~2016) 小谷英夫(2017~2018年) 片山昌二(2019~2020年) 駒口秀紀(2021~2022年) 依藤健(2023年~現在)

博物館とともに

博物館と連携を取りながら運営しており、学芸員の講師によるくずし字の解説や背景事情の説明を交え、博物館の収蔵資料を中心に横浜市域の古文書の解説に取り組んでいます。また、成果物の一部は博物館の企画展にも使われています。



横浜古文書を読む会で解説した「武州金沢藩目付日記」



通常活動の様子(2025年12月)

通常活動以外の活動

毎年8月は、古文書解説を実施しない代わりに、外部講師をお招きして、夏季歴史講演会を開催しております。

その他、随時、古文書で登場した地名などの現地を歩くフィールドワーク(巡見)や講師による企画展(主に江戸時代)のフロアレクチャー(随時)などがあります。また、有志による古文書の輪読会(下読み会)なども実施しております。



2025年度の夏季歴史講演会の様子



フィールドワークの様子(旅籠屋本金子屋跡)

会員からのメッセージ

博物館主催「はじめての古文書講座」を終え、当会に入会してから一年たちました。小林紀子先生は、芝増上寺領である川和村の御用留を解説。仲泉剛先生は、旗本岡野氏の知行地長津田村の河原家文書を解説。文書の背景も解説していただき、旗本領と寺社領が違うことが臆げながらわかりました。村々のことを、もっと知りたい!会(下読み会)なども実施しております。

28期 M.M

書状や滑稽本のくずし字を読めるようになりたい動機で入会して十年、ようやく教材の村方文書を通してくずし字を読むことに慣れてきました。おかげで「おくの細道」の芭蕉自筆草稿を読み、名句の背景にある作者の感慨を知り、「浮世風呂」で江戸の町の空気を追体験しました。これからも会の活動を通じて、当初の目標に近づきたいと思っています。

21期 M.Y

横浜さいかちの会



[設立年月日] 2005年7月30日

会員数 56人 (2026年3月現在)

なりたち

1999年3月からはじまった歴博遺跡公園のガイドボランティア卒業生により、遺跡公園ボランティアで培われた歴史や文化に関する幅広い知識の滋養を深め、横浜市が展開する市民の生涯学習啓蒙活動をサポートするような会として結成されました。

古文書解読や遺跡巡りなどの部会制活動、会員親睦の進展などを意図して熱意ある生涯学習グループとして成立。会の名前はボランティア一期・二期同窓会の名前から取りました。

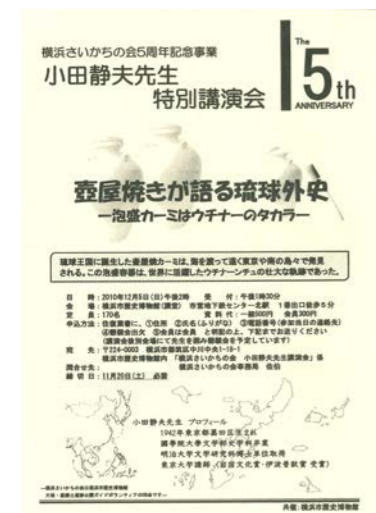
今

博物館の展示解説ボランティア卒業生のみならず、現役ボランティアも会員として参加ができるようになり、積極的に活動しています。現在は、部会活動として、史跡見学会、歴史講座講演会など年間を通して自主企画しています。

代表変遷

尾田彰男(2005~2006) 佐伯良江(2007~2010) 翠政之(2011~2015) 平山恵子(2016~2021) 富岡陽子(2022~)

博物館とともに



はじめての主催事業のチラシ



さいかち中世史講座



総会時講演会(ボランティア研修を兼ねて)

博物館のガイドボランティアで培った知識を生かし、またガイドを退任した後もさらなる学びを求め、現役ボランティアの研修会協力や学芸員を講師とした史跡巡りなど、知識を深めてきました。2010年の5周年記念事業からは、博物館との共催事業として、会員以外の方の参加も可能とする講演会を企画、これまで延べ3000人以上の一般市民の方に学びの機会を提供しています。

主な活動



歴史散歩



講義の様子



会報『横浜さいかち通信』

博物館学芸員を講師に迎えた講演会、史跡見学会や外部講師を招いての講座または講演会企画が主な活動です。日本歴史にかかわる多彩な活動の報告や案内は会報『横浜さいかち通信』に掲載しています。

会員からのメッセージ



50代の頃、退職後の楽しみとして好きな歴史関係のガイドがあると知り、遺跡ガイドを始めました。会長を務めることになるとは思ってもみませんでした。毎年どんな講演会をしようか、どこの遺跡見学に行こうかと楽しみつつ苦しみつつ考えています。会員の皆様のより楽しい学びのため新しい企画を考えていけたらと思っています。(会長 富岡陽子)

ボランティアガイドの卒業生から始まり現在は現役のガイドを含んだ会員で活動をしています。それぞれ卓越したご経験・能力をお持ちの会員の方々です。会員がお持ちのノウハウは近来耳にするダイバーシティを見据えると将来への展望・対応が開けると思います。(副会長 西塚守男)

横浜歴博もりあげ隊



[設立年月日] 2013年5月14日 会員数 34人 (2026年3月現在)

なりたち

既存の横浜市歴史博物館関連団体連絡会から、2013年5月独立しました。博物館との情報交換、連携を進め、博物館を活用し自ら学び体験するとともに、当会自ら企画実施する活動を通じ、博物館がより広く市民に親しまれ、活用されるよう微力ながら博物館を支援、応援することを目標に市民グループとして発足いたしました。

今

広く市民に門戸を開くことを目的に、当会独自の目線での歴史講演会、コンサート、地域イベントや博物館イベントでの子供対象のワークショップ協力、市民目線でのアンケート調査・集計など幅広い活動を行っています。

代表変遷

佐伯良江(2013~2024) 森田康博(2024~2025) 佐伯良江(2025~)

博物館とともに

市民に横浜市歴史博物館を知っていただくこと、博物館に市民目線での情報をお伝えすること等を僭越にも当会は目標に掲げております。それは、ただ、横浜市歴史博物館が大好き、学芸員、職員の皆さまが大好きだからです。そんな独立精神旺盛な当会を温かく見守り、ご支援下さったのは実は佐藤信館長(鈴木靖民前館長)を始めとする博物館職員の皆さまでありました。

地域の知の財産である横浜市歴史博物館がますますご発展されるよう、微力ながらお手伝いさせていただければ幸いです。



歴史講演会



横浜歴博サロン

※横浜歴博もりあげ隊は2025年度末をもって、活動を休止しました。

主な活動

- 博物館協力活動 ———— ・博物館感謝祭/クイズラリー・缶バッジづくり他・歴史未来フェス/あじろ小物入れづくり指導
- 外部出張博物館支援活動 ———— ・つづき人交流フェスタ/パネル展示・子供用WS 博物館外部用アンケート調査
- 歴史講演会 ———— ・2013年~2025年年1回~2回開催21回・基本的に外部講師招聘、内容は全国規模で話題性ある歴史・文学
- バロック・コンサート ———— ・伊勢原市の湘南バロック・アンサンブルによる演奏・2017年~2025年開催6回(8回企画するもコロナ等で中止)
- アンケート調査 ———— ・博物館常設展示室前、歴史講演会、コンサート、つづき人交流フェスタなどにおいて、調査、集計し博物館へ提出
- 会員の研修と交流 ———— ・横浜歴博サロン/博物館学芸員、財団研究員による講座・交流推進/会員、時に外部参加者での史蹟、遺跡、博物館見学



あじろあみワークショップ(歴史未来フェス)



バロックコンサート



会報「横浜歴博もりあげ隊だより」

会員からのメッセージ

「博物館30周年に向けて」中川二與

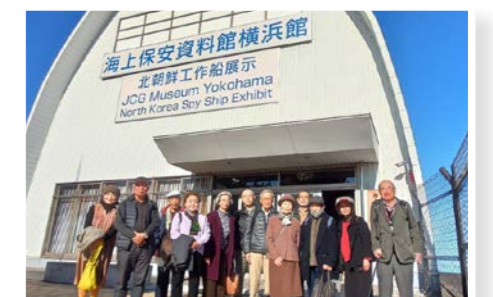
横浜歴博もりあげ隊が博物館関連団体の一つとして、市民目線の博物館応援・支援活動を行って10年余りになる。この間コロナ禍の時にはオンライン会議により活動を続け、また最近ではSNSによる行事の広報、QRコードによる参加受付やアンケートなども行っている。今後も新しいツールを効果的に利用しつつ、更に多くの市民に博物館を訪れてもらえるよう努めたい。

「これからの横浜歴博もりあげ隊」杉木美樹子

2013年発足した会は、博物館のバックアップを得ながら、講演会、バロック・コンサートの開催やアンケート調査、博物館行事の中でのワークショップ等の活動を徐々に増やしてきました。今、それらの活動が定着し、継続出来ているのは、各人が得意分野を担い、絶妙なバランスとチームワークがあったからこそと思っています。少数ながら若い方々の入会もあり、IT全盛の中であって、会運営の中でIT化も必要になりますが、手作りの温かさを残しながら、誰もが活躍できる会を目指せていけたらと思っています。



バロックコンサートを終えて



海上保安資料館横浜記念館にて記念撮影

都筑民家園



歴史博物館との連携について

都筑民家園 事務局長 木村格



番台 deVR 博物館企画展「銭湯と横浜」

横浜市歴史博物館と都筑民家園が歩んできた30年間という歲月。それは、都筑の歴史的遺産が市民の暮らしの中でどのように呼吸し、新たな価値を紡ぎ出せるかを探求し続けた、挑戦の記録でもあります。横浜市が整備した都市公園の文化体験施設(古民家)を生かし、市民のアートな活動に対し歴史博物館の共催をいただき、区の共催も受けて素晴らしい時間を共有できたことに感謝しております。

都筑民家園(旧長沢家住宅)は当初、横浜市歴史博物館の屋外施設として1997年に移築開園され、同年11月には旧長沢住宅が横浜市指定文化財に指定されました。当初の8年間は市教育委員会、横浜市ふるさと歴史財団のもとで「都筑民家園愛護会」が古民家の清掃、維持管理と文化体験施設として古民家活用した市民向けの文化イベントを運営してきました。2005年に年中行事をはじめ各種の文化体験イベントの運営が認められて、所管も横浜市緑政局(のちに環境創造局)に移り、管理運営委員会に格上げされました。

次の10年は歴史博物館と民家園の連携が一段と進んだ時期となりました。2006年からは指定管理者制度が導入され、同時に現代アート作家の作品を民家園に展示するアートイベントがはじまり、3年間「民家園de現代アート展」を開催、現代アーティストが10人も参加して下さりスタートしました。2007年、10周年記念「民家園deアート茶屋」は現代アーティストに加え、市民参加を経て拡充、2009年からは全国的開花したアートプロジェクトの都筑版「都筑アートプロジェクト」がスタートしました。ヨコハマアートサイト(アートフェスティバル)助成、歴史博物館の共催も得て、関東近郊の現代アーティストが古代の遺跡公園、江戸期の古民家の歴史性に共感、場所性を生かした斬新な作品作りが展開されました。多彩なアート作品が遺跡公園、古民家に展示され、普段とは全く異なる空間が出現、身近にアート作品に触れるアートイベントが定着しました。2010年、都筑民家園もNPO法人になり、2012年からは「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」に模様替え、現代アートとして出発したアートイベントから、より広くアートを身近に体験できるコミュニティアートに移行しました。歴史博物館と都筑区役所の共催もいただき、地域の小中学校とも連携して現代アーティストと共同制作、現代いけばな展示など遺跡公園、古民家を生かした多様なアートイベントに展開しました。文化施設も文化行政の時代のニーズを受け、歴史博物館の重厚感ある建物や講堂、エントランスホールの有効活用、遺跡公園、芝生広場、弥生時代の犬塚遺跡の魅力的な使い方を工夫、お互いの強みを生かし、公共施設の魅力向上に大きく寄与した10年間だと思います。2015年、それぞれの施設が指定管理の運営にあたり「文化的コモンズ(共有財産)」を目指すことを確認しました。

そして次の10年間は文化庁助成拡大大期、2016年からは歴史博物館が地域の核となる歴史博物館支援助成を受け都筑の特色を生かした「アート&ヒストリー」に移行。地域の文化遺産である都筑民家園や遺跡公園を観光拠点化することを目的に古民家や都市公園を活用する事業として、「日本を知ろう」や「遺跡マルシェ」を開催。中でも、2017年ヨコハマトリエンナーレの「島と星座とガラパゴス」をテーマに小中学生合同でトライした子どもならではの発想の作品制作は大変盛り上がりしました。2018年からは「博物館クラスター形成」と地域連携した観光拠点形成が期待され、2019年に文化財保護法改正があり「保存から活用」へ舵が切られて、観光の視点が加わり、博物館の運営の大きなターニングポイントとなりました。文化庁の助成を受けて都筑のアートイベントが大きく花開くことができた一方で、2020年世界的なパンデミックのコロナ禍の3年間を経験し、全速力で走り続けていた時期、立ち止まり振り返る良い機会にもなりました。2018年、活動の成果は「よこはま地域文化遺産デビュー・活用ガイドブック」にまとめられています。多彩なアートイベント「アート&ヒストリー」の活動では多くのアーティスト、ボランティアの方々のご協力に支えられて実現できたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、歴史博物館、都筑民家園、区民文化センター(ボッシュホール2025年開設)の3施設が協力して横浜市北部の文化的コモンズ(公共施設の共有財産)として機能していくことが求められていると思います。博物館は横浜市教育委員会、区民文化センターはにぎわいスポーツ文化局、民家園はみどり環境局からそれぞれ指定管理を受けています。それぞれの施設の特徴を生かし、多様なステークホルダーの方々の参加も得て連携、まちの賑わい創出が期待されています。市民により親しまれる公共施設として、施設職員、アーティスト、ボランティア、一般市民の方々とともにこれからも市民の皆様にも愛される公共施設を目指し、豊かなまちづくりにも寄与したいと思っています。

主な活動

年中行事



2012 端午の節句 (こいのぼり)



2008 七夕の節句 (七夕飾り)



2020 重陽の節句 (菊、着せ綿)



2013 節分 (豆まき)



2014 上巳の節句 (ひな祭りウィーク)

文化体験



2005(餅つき交流会)



2019 お月見ライブ (現代雅楽)



2016 サムライイベント (甲冑着付け体験)



2022 主庭で立礼席 (茶室活用の会)

アート



2010 モダンアートがやってきた日 上野雄次



2011 都筑アートプロジェクト ドラゴンチェアの旅 開発好明



2011 そのえだはこの木 中川小WS 武藤亜希子



2013 花あそび無音花・丸山純子



2017 トリエンナーレ 連携 中川西中、すみれ小WS



2014 サファリツアー キリン(中央大付属高美術部)



2021 濱崎道子書道展 大字揮毫



2022 ロジウラート 路地裏+アート

都筑区連携行事



2010 林市長来訪、茶室にて



2015 ビーコルフラッグWS センター北駅(都筑区主催)



2018 オリパラ・日本とイギリス文化の融合(都筑区主催)



2024 区制30周年記念 和楽器体験(都筑区主催)

建物に関する



1997年3月民家園オープンの日



2009 茶室上棟式、餅まき



2010 茶室開き



2016 茅葺き屋根の葺き替え完了

みなきたマルシェ



歴史博物館30周年に寄せて

みなきたマルシェ実行委員会 有好まなみ



みなきたマルシェは、「食べて・笑って・体験して」をテーマに、地域の中で人と人がゆるやかにつながる商店街のような近所マルシェを目指して、2022年5月から活動を続けてきました。小さなお子さん連れのご家族、ご近所の方、学生さん、高齢者の方まで、世代を超えて同じ場所に集まり、自然と会話が生まれる——そんな風景を大切にしながら、一歩ずつ歩みを重ねてきました。

横浜市歴史博物館との出会いは、私たちにとって大きな転機のひとつでした。

みなきたマルシェでは「地域の人が気軽に立ち寄れる場をつくりたい」「キッチンカーを呼んで、もっとにぎわいを生み出したい」という思いがありました。当時、継続的に開催できる場所を探していましたが、そんな折に、博物館の軒下であるコロネードを使わせていただけることになりました。おかげさまで、キッチンカーの食事を楽しむご家族の姿や、ワークショップや物販をきっかけに初対面同士の会話が始まるシチュエーションが増え、「地域の居場所」が少しずつ形になっていることを実感しました。

みなきたマルシェでの活動の可能性が一気に広がっていきました。博物館を訪れた方が「こんなイベントをやっていたんですね」と年中行事や地域活動に興味をもってくださったり、逆にマルシェをきっかけに歴史博物館へ足を運ぶ方が増えたりしました。互いの存在が新しいつながりを生み出していったことが、のちに「歴史未来フェス」の企画運営に携わらせていただく、きっかけにもなりました。歴史博物館は、歴史を学ぶ場所でありながら、未来へ向けた交流や挑戦が生まれる場所になっていったのではないのでしょうか。

30年という長い年月の中で、多くの方々に愛され、地域とともに歩んできたこの場所が、これからも「身近な地域を好きになるきっかけ」であり続けることを願っています。そして私たちもまた、その一端を担えるよう、地域に寄り添いながら歩みを重ねていきたいと思えます。

横浜市歴史博物館30周年、誠にありがとうございます。



大塚・歳勝土遺跡公園でのみなきたマルシェ開催
※第3回 歴史未来フェス(2025年)



みなきたマルシェ実行委員会メンバーと歴史博物館担当者
※第1回 歴史未来フェス(2023年)

主な活動



第1回みなきたマルシェチラシ
※2026年3月現在第47回



大塚・歳勝土遺跡公園内みなきたマルシェ会場MAP
※第2回 歴史未来フェス(2024年)



横浜市歴史博物館と3商業施設とのみなきたマルシェBIGの開催
※2024年10月みなきたマルシェSUPER BIG ハロウィン チラシ



横浜市歴史博物館にて開催の様子



年中行事開催の様子

